

## 祝横芝町合併40周年 第5回横芝町花火大会



会場は開幕1時間前に人で埋め尽くされました

横芝の夏の夜空を彩る光の大輪——。

8月14日、行われた第5回横芝町花火大会は人ひとひとひと……。スターメイン、尺玉、4号玉など5000発が、この夏の猛暑を吹き飛ばせとばかりに豪快に打ち上げられ、6万5千人の大観衆が光の祭典に酔いしれた。

ふれあい坂田池公園を会場に、現在の花火大会が行われるようになったのは今から4年前の平成2年。坂田城築城五百年を記念して、地域の活性化と地域の連帯をテーマに、明るく住み良い町づくりを目指し、30年ぶりに復活したもので、今回で5回目を迎えました。

近隣では、佐原や小見川、銚子などの花火大会が有名ですが、横芝の花火もこれに勝るとも劣らない人気で、今回も町内外から大勢の見物客が集まり、人出は過去最高を記録した昨年（5万1千人）を大幅に上回る6万5千人。会場周辺には8箇所の特設駐車場に1300台分の駐車スペースが設けられましたが、会場に一番近い駐車場となった中学校は、午後6時過ぎには既に満車状態になっていました。



子どもたちは花火より…かな？

午後6時55分、会場を埋め尽くした大観衆の前に實川町長が「横芝町合併40周年を迎える節目の年となった今年の大会は、その祝福の意を兼ねたものです。関係者の皆さんには、大変なご苦労をおかけしますが、素晴らしい花火大会になるよう御祈念申し上げます」、そして今年6月に就任した平山観光協会会長が、「音と光の織り成す感動の競演を、最後までお楽しみください」と挨拶。10・9・8・7・・・0のカウントダウンで午後7時に開幕すると、次々に5000発の花火が打ち上げられ、お盆で帰省した人たちも、2時間に渡って故郷の夜空を焦がす光の祭典に酔いしれていました。中でも超特大の水中スターメインと



# ▼光の祭典に6万5千の大観衆▲

# 猛暑を吹き飛ばせ